

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473600425
法人名	秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
訪問調査日	平成23年9月15日
評価確定日	平成23年10月31日
評価機関名	株式会社R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600425	事業の開始年月日	平成13年3月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	秀峰会			
事業所名	グループホーム風の生活館			
所在地	( 245-0016 ) 神奈川県横浜市泉区和泉町5932-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に、入居者様の希望に添うよう、内に秘めた気持ちをくみ取れる感性をもつよう努力している。ケアワーカーの満足でなく、又、見た目の良さでなく、入居者様一人ひとりの気持ちを大事にするようなケアをめざしている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成23年9月15日	評価機関 評価決定日	平成23年10月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営は、社会福祉法人「秀峰会」である。同法人は特養を始め、訪問介護・看護、通所介護等介護関係すべての業態を運営しており、グループホームも8事業所を経営している総合介護事業体である。このホームは、相鉄線「いずみ野駅」からバスで5分（徒歩の場合15分）の緑の多い田園風景の中にある。施設は、2階部分にあり、1階は、同法人のデイサービスとなっている。1ユニットのホームで、居室は、広く、窓からの景色も良く、中央のゆったりとしたリビングを囲むように配置されており、家庭的な雰囲気である。管理者は、約1年前に就任され、同法人の理念「人間が主体・連帯の輪を広げる・新たな今日を創造」を念頭に置きながら、「利用者の本当に望んでいることは何か」を探し、応える事を課題として、会議等で職員に周知を図り実践につなげている。

②地域との関わりについては、地元の並木谷戸町内会に入っており、この4月に代わった新町内会長の提案を受けて、同じ町内会にある他のグループホームと合同で運営推進会議を行っている。お互いに意見・情報交換の場にもなり、有益な運営推進会議となっている。町内会との関係を更に深めるため、4月より町内会の掃除に参加したり、町内会の行事（盆踊り・運動会等）への参加など、地道な活動を行いながら地域との関係構築に努めている。

③介護計画については、9名の職員全員が利用者一人ずつの居室担当になっている。それぞれの居室担当が原案を作り、みんなの意見も集め、最後にケアマネジャーを含めた検討会議を経て、介護計画が見直されるという、きめの細かい手法を採っている。同法人の毎月一度行われる新人、実務者研修や、グループホーム長会議での情報は全職員が共有し、職員一人ひとりのレベルアップを図り取組んでいる。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	風の生活館
ユニット名	グループホーム風の生活館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のパート会議において、事業部研修やホーム長会議での情報を共有し、理念の確認を行っている。又、新しく入職した職員には、その都度、理念について周知し、実践につなげている。	新しく入社した職員については、新旧の職員間のコミュニケーションが上手くいくよう、管理者は「相手の長所を認める」との考えを浸透させるよう努めている。また法人の理念についても、都度話すよう心がけ、毎月の職員会議でも話し合い、職員全体が共有するよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板も回して頂いている。地域の行事、盆踊り、運動会へ積極的に参加している。又、事業所主催の行事には、来苑して頂くようお声かけしている。	町内会の行事（盆踊り・運動会）には積極的に参加し、町内会の掃除にも出るようにしている。ご近所とも顔馴染みができ、気軽に声をかけて頂いている。ホームが行う恒例の秋祭りには、地域の皆様を招待し、地域の方々との関係を更に深めている。小学校との関係作りを課題にしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回、「介護保険説明会」を開催している。又、苑の見学はいつでも受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を、すぐに実践に活かしている。又、今年度は、町内会長の都合で、GHみもごと合同で行っている。その為、より多くの方とお知り合いになれば、他ホームの活動も聞ける。	ほぼ同時期に、町内会長・地域包括担当者それにホーム管理者、施設長の交代があり、運営推進会議も新しい方式での展開を取り入れ、同じ町内のグループホームみもごと合同で、年4回のペースでの開催を企画している。お互いに情報交換もでき、知り合いにもなれ、有意義な運営推進会議となっている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者の交代があり、引継ぎが上手く出来ていなかったが、運営推進会議や実地指導に来て下さった行政担当者とお知り合いになれたので、今後に繋げていく。	管理者の交代後、今年5月に泉区役所・県職員が、実地指導に来訪があり、県、区との面識が出来たので、これを期に関係を深めて行きたいと考えている。区役所からは10月に開催される研修の案内を頂き、職員を参加させる予定にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、マニュアルを使い「どんな事があっても拘束は行わない。」と言う姿勢を全職員に周知している。日々のケアでは、毎日のミーティングでその都度話し合っている。玄関の施錠に関しては、構造上難しい為、御家族には説明している。	身体拘束マニュアルを整備し「どんな事があっても拘束は行わない」ことを全職員に周知し、日々ミーティング及びその都度話し合い、研鑽を深めている。グループホームは2階にあり、玄関はデイサービスと共用であり、施錠は、安全管理上ご家族の了解を得て施錠しているが、閉塞感を持たぬよう外気浴や散歩、出たい方には付き添うよう努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が、虐待を起こしてしまうような精神状態に追い込まれないよう、常日頃から職員に声かけし、仕事について問題を抱えていないか確認している。万一利用者に出血などがあった時には、全員で原因を話し合い対策を考え、虐待はあってはならないと言う認識を強く持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業部研修などにおいて、定期的に研修を行っているが、現在必要な方はまだおらず、活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書を2部用意して、双方で読み合わせを行い、疑問点がないか、一つ一つ確認をしながら説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている。（重要事項説明書に記載）面会時にも、職員と話ができるような雰囲気作り心掛けています。又、「意見箱」を設置して、いつでも入れられるようにしている。	ご家族との電話の際、面会時には、雰囲気作りにも努め、要望・ご意見等を伺えるよう努めている。また、ご意見箱や苦情窓口（重要事項説明書に記載）を設けている。クリスマス会には、ご家族を招待し、懇談会を開いてお話をお伺いする機会を設けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のパート会議では、職員が積極的に意見が言えるようリラックスした会議を心掛けている。又、普段から、皆が意見交換出来るような雰囲気を作り、良い提案は反映させている。	毎月一度の職員会議は、夜勤者を除いてほぼ全員が集まり、忌憚なく、意見交換をしている。また、夜勤者からの申し送り時にも、何かあれば都度打ち合わせを行うなど、職員間の意思疎通が十分行われるよう管理者は配慮している。パート職員も積極的に意見が言えるよう、リラックスした会議を心掛けている。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の勤務状況を常に把握するよう目を配り、年に一度の昇給時の参考にしている。又、職員の体調変化などにすぐに気付けるよう、普段から声かけしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業部研修には、順番に参加している。又、外部の研修にも積極的に送りだしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のGH連絡会で知り合ったホームの方と連絡を取り合っている。今年度は、交換研修にも申し込んでおり、10月に実行予定である。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの段階から、利用に到るまで、何度か面談を行い、不安な事、要望をお聞きし、安心していただけるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する段階でも、困っている事、不安、希望を言って頂けるような、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談の際、いろいろな方向からお話を伺い、ニーズを把握する努力をしている。担当ケアマネージャーにお話を伺い情報を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ちながら、尊敬の気持ちを持って接している。学べる事は学び、お手伝いが必要な方にも、他の方には気付けられないよう、何気ない言葉と態度で援助するよう、心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態を常に家族に報告し、話し合い、納得された方向で援助している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族はもちろん、友達が遊びに来て下さったり、入居前に通っていたスーパーで友達に会ったりしている。デイサービスから入居された方は、毎週友達がデイサービスから、遊びに来て下さる。	1階デイサービスの利用からホームに入所した利用者など地元の入居者の方も居られ、ご家族の来訪は多い。友達が遊びに来て下さっている。また、近所のスーパーで、利用者が、入居前の友達に会うこともある。自宅やご友人の記憶は徐々に薄れていくので、このホームでのご近所とのお付き合いを大切にしていきたい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話の架け橋をする事により、入居者同士の関わりが出来ている。1人でいらっしゃる方には、声かけしてお席の誘導もしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望があれば、退去後も相談等に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示をハッキリ言える方は、その希望に添うように、又、意思を伝えられない方は、いろいろな面から観察し、職員が感じた事を話し合い、意向の把握に努めている。	感情を表現出来る方にはその方の言葉、行動から心の内に接するよう努め、感情の表現が希薄な方は、これまでの経過やコミュニケーションにより思いを話し合い、把握に努め、モニタリングに繋げるようにしている。職員の感じたことは、持ちより話し合いをして、意向の把握努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接の段階で、生活歴、生活環境、暮らし方、サービス利用状況の把握は行っている。入居後も、可能であれば本人、不可能であれば家族から、お話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化している利用者の状況を、毎日の申し送り、パート会議等で、職員間で情報を共有し現状把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の希望を伺い、職員が日々観察して得た本人のニーズに添うように介護計画を作成している。	居室担当制を取っている。利用者と家族の希望を伺い、職員が日頃よりの観察に基づきカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは原則6カ月毎に行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のご様子は、個人記録に記入している。申し送りにて、職員間で情報を共有し、ケアや介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連絡ノート等により、本人は勿論、家族の状況も全職員で情報共有し、状況に合わせて、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用には努力している。又、本人が、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員月2回の訪問診療を導入している。突如の疾病にも往診もしくは、電話での指示で対応している。他の病院への受診が必要な方には、紹介状を出していただいている。その他、希望される方には、訪問歯科診療も導入している。	かかりつけ医は利用者毎の主治医を尊重することを話しているが、現状は利用者全員が協力医療機関で月2回の訪問の「みずほクリニック」の診療を受けている。看護師は訪問看護ステーションを活用し、24時間対応で、緊急時には、相談もでき、必要な場合には、医療機関との連絡もして頂けるので助かっている。毎週一度希望者には、訪問歯科診療も導入している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の訪問看護を導入している。週1回の定期訪問による、入居者の健康管理の他、体調変化時には電話による相談、指示、場合によっては、訪問により、指示医への連絡と、きめ細かい対応にて医療面での支援が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と入院先の医師の情報共有により、退院に向けての支援がスムーズに行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、重度化、終末期における契約を交わしている。又、月2回の往診時に、家族に立ち会ってもらい、直接医師から話しを聞く事も行っている。事業所で出来る事を十分に説明した上で方針を共有している。	入居の際「重度化・終末期介護に係わる同意書」を取り交わしている。又、月2回の往診時に、家族に立ち会ってもらい、直接医師から話しを聞く事も行っている。事業所で出来る事を十分に説明した上で方針を共有している。重度化した段階では家族・かかりつけ医・スタッフの三者が揃って話し合う機会を設け方針を決めるようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。緊急時の連絡体制、マニュアルも整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と協力し、夜間想定避難訓練を行っている。その他にも、併設のデイサービスと共同で避難訓練を行っている。又、消火器、非常灯の定期点検、非常食、飲料水に関しては備蓄しており、毎月点検を行っている。	毎年2回消防署の協力を得て、夜間想定を含めた避難訓練を行っている。前回はデイサービス部門と共同で行い、10月には、ホーム単独で再度夜間想定避難訓練を行う予定である。震災想定訓練も消防署の指導のもと行いたいと考えている。足元の多少不安な方には、災害時に緊急に移動できるよう車椅子を予め居室に置き、消火器、非常灯の定期点検、非常食、飲料水に関しては備蓄などにも心がけている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を損なわないような言葉かけや対応に心掛けている。申し送りの際には、イニシャルを使い配慮している。又、他の方に注目されないよう、介助の声かけには、気を配っている。	本人の尊厳を損なわないような声かけや対応を心掛けている。特にトイレ誘導などの場合には尊厳に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。利用者の情報を申し送る際には、職員間で個人名をイニシャルに代えて呼ぶようにしている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表せるような雰囲気作りに心掛けている。自分の思いを言葉に表せない入居者には、その表情をくみ取り、自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の入居者の心身状態、ペースに合わせて対応している。可能な限り、外出の要望、気分転換など、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院にお連れしたり、化粧品やマニキュアを使って、本人の好むオシャレを楽しんで頂いている。又、衣類などの買い物にも積極的に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から、野菜切り、料理、盛り付け、食器洗い、食器拭き、など、利用者と楽しみながら行っている。又、献立を作るときには、利用者にお好きなものを相談しながら、作成している。	ホーム独自の献立の食事を、献立を作るとき利用者に好みを相談しながら、食材の買い付けから調理まで、職員と利用者で楽しみながら行っている。今まで昼食は、デイサービス部門から取り寄せていたが、新管理者の方針で11月からは、昼食も自分たちで作る予定にしている。メニューは職員が交代で1週間毎に作成されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を取っている。午前、午後とお茶の時間を設けて、好みの物をお出ししている。常食が難しい方には、おかゆ、刻み、とろみ等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には、口腔ケアの声かけをしている。希望者には、週1回の訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへの誘導を行っている。適切なリハパン、パットを選択し、漏れや無駄のないよう配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して出来るだけトイレでの排泄を行っている。利用者の自尊心への配慮を特に大切にして支援に努めている。一人ひとりの排泄状況を把握することで適切なパット（適切なリハパン、パット）を選択し、誘導時間を設定し、支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけている。日頃から、水分、ヨーグルト等の摂取に心掛けている。便秘がちな方には、便秘薬を処方してもらい、調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前には必ず声かけし、相談して時間を調整している。又、血圧、体温測定により、健康管理にも気を付けている。入浴拒否がある方には、声かけするCW、誘導するCW、入浴介助するCWと工夫している。	入浴は、原則、一日置きとし、午前・午後問わず、利用者の希望に出来るだけ副えるよう対応している。入浴前には必ず声かけし、相談して時間を調整している。血圧、体温測定を行い、健康管理にも気を付けている。入浴拒否がある方には、声かけを行う職員、誘導する職員、入浴介助する職員を変えてみるなど工夫しながら支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや、その日の活動状況に合わせた睡眠支援を行っている。寝具は、個々の好みで用意して頂き、身体状況によっては、介護用ベッドを随時導入している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の情報は、医療ファイルに保管し随時閲覧出来るようにしている。クリエイト薬局と契約しており、個々の薬のセットを担当している。薬の変更があった時には、体調等の変化を随時申し送り、職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、現在の入居者の状況に合わせて、役割ごとを作っている。嗜好品、楽しみごと、気分転換も随時支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添えるよう、可能な限り外出支援に努めている。利用者の身体状況により、1対1、1対2等工夫したり、デイサービスの車を借りての外出も行っている。	環境は、散歩に適しており、一人ひとりの希望に副えるよう、可能な限り外出支援に努めている。また、近くのスーパーへの食材の買い物にも利用者同伴で出かけている。利用者の身体状況により、1対1、1対2等工夫しながら外出したり、デイサービスの車を借りての外出も行っている。お花見、鯉のぼり見学など遠出をすることもある。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つ事の大切さを理解しているが、御家族が反対している方もおられ、相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話出来るよう支援している。手紙を書くに可能な方には、ハガキ、切手、便箋なども用意している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃は、毎日行っている。家具類のレイアウトにも配慮し、季節感を出すよう、季節の花を飾っている。又、職員の足音や話す声には、特に気をつけている。	ホーム内の清掃は、毎日行っており、共用空間であるリビングは清潔である。また、リビングの天井は吹き抜けになっており、開放感がある。利用者の好みの音楽を流したり、廊下に行事の写真を展示し、テーブルの清潔に配慮し、また職員が発する音（足音やしゃべり声）等には特に注意を払い、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。季節感を出すよう、季節の花を飾っている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、大勢が集まれるソファを設置し、座る位置にも配慮して誘導している。食事の席は別に設け、会話が弾むよう、気の合う方がおしし易いように気を配っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、家から馴染みの家具などを持ってきていただいている。御家族の写真を飾ったり、趣味の物を側に置いたり、個々の好みの部屋になるよう工夫している。	居室は十分な広さがあり、入居されるときに馴染みの家具・備品を持ち込んで頂いている。利用者の好みの部屋になるよう、基本的には、自由に使って頂いており、ご家族の写真を飾ったり、趣味の物を側に置いたり、個々の好みの部屋になるよう工夫している。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、安全に自立した生活が送れるよう、ホーム内に手すりを設置したり、入浴時には、シャワーチェア等、介護用品も活用している。			

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム風の生活館

作成日

H、23、8、20

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
	34	事故発生時の初期対応訓練が不十分である。	どんな場面に遭遇しても対応できるようにする	具体的な訓練を行う。	今年度中
				消防署等で行う訓練に参加する。	今年度中
	49	外出が思うようにできていない。	定期的に外出できる工夫をする。	シフトを工夫して体制を整える。	今年度中
				過去の外出計画を参考にする。	今年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。